

高齢者と障害者の快適な暮らし提案

バリアフリー2012 大阪で開催

最新の福祉機器や最先端の技術を披露

高齢者や障害者の快適な生活を提案する総合福祉展「バリアフリー2012」が4月19日から21日まで大阪府住之江区のインテックス大阪で開催された。およそ9万5000人が来場、最新の福祉機器や最先端の技術などが披露された。今回は福祉の現場を支える企業や人材が集まるバリアフリー展と高齢化社会を支える「慢性期医療展」が併催された。

視覚障害者向けが充実

視覚障害者に向けた展示では、(株)インサイト(仙台市)が拡大読書器を展示した。携帯型拡大器は2倍から14倍までのズームが可能で、画面も4・3インチと大きめ。細かい新聞文字も楽に読める。

企業組合のカトレア・サービスは大型点字対応のプリンターを披露した。点字のほか点図も打て、名刺から封筒、A4サイズまで対応している。低予算で導入できるのも特徴で、障害者の小規模作業所や家庭内での活用も期待される。

篠原電機(大阪市)はLEDを採用し、視覚障害者や高齢者が安全に横断歩道を渡るよう工夫した音響装置と、横断歩道で音

よって歩行者を誘導する超音波パラメトリックス「ピーカー」を展示した。

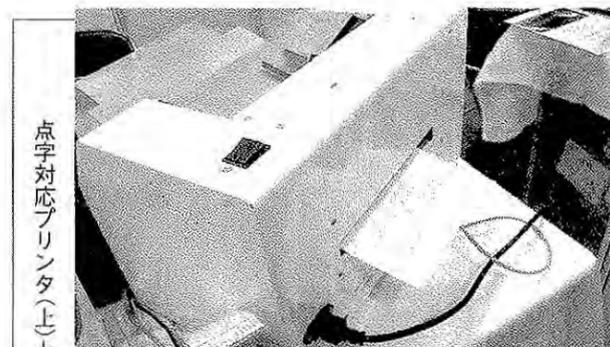
三菱電機は「しゃべるテレビ」として音声ガイド機能付きの液晶テレビ「REAL」を展示した。番組表はもろろん、操作メニュー、検索キーワード、録画した番組などを読み上げてくれる。

パナソニックも音声読み上げ機能が付いた「ヒエラ」と「デイガ」を展示した。2011年以降、すべてのヒエラ・ブルーデイガに機能を搭載している。

大阪ガスは段差の解消だけでなく、「誰でも使える」「不安や心配がない」「のんびるくつろげる」「介護する人も楽」などの視点で開

発したバリアフリー製品やシステムをアピールした。たとえば「Siセンサーコンロ」は全バーナーにセンサーを搭載して便利で安

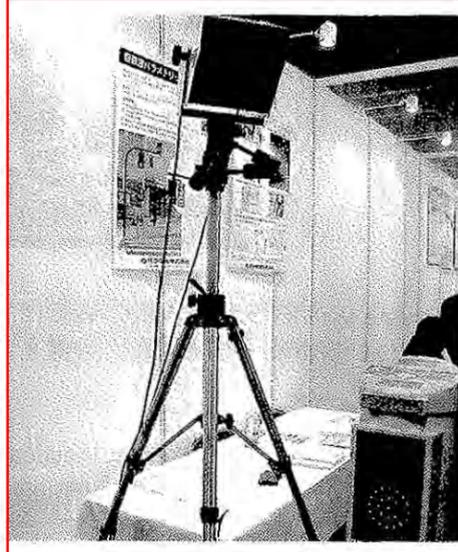
心安全なコンロ。センサーにより、天ぷら油加熱防止や、消し忘れ時の消火などの機能がある。



点字対応プリンタ(上)としゃべるテレビ(下)



大阪ガスのブース(上)と篠原電機の超音波スピーカー(右)



期間中、9万5千人が来場した

介護者をサポートする提案も

慢性期医療展も開催

積水ホームテクノ(大阪市)は浴室で便利な可変式の補助装置を使った浴室内を再現した。同ブースでオーストラリアで普及しているノーリフトを紹介するミニセミナーが開催された。ノーリフトとは介護で危険や苦痛の伴う、人力のみの移乗を禁止し、患者の自立度を考慮した福祉用具使用による移乗介護を義務付けるもの。日本でも看護師・介護労働者の腰痛が多発しており、福祉用具を有効に使用しながら介護者の腰痛を予防することも必要という。日本ノーリフト協会が説明した。

介護事業者向けのパソコンソフトを披露したのはNDソフトウェア(山形県南陽市)。「ほのぼのNEXT」は事業者向けのソフトで在宅ケアを前提とした居宅介

障者があっても調理がしやすい「クックサポ」は九セラ株式会社(福岡県大牟田市)が提案した。包丁を使いにくい人のために、十字型に切れ目を入れた補助具を使うことで、安全に包丁で食材を切ることができ

同社は従来の陶器の約3倍の強度を持つファインセラミックスの技術を使った強化磁器シリーズも展開している。軽くて天然素材を使用した安全性は高い評価を受けている。



NDソフトウェアの「ほのぼのシリーズ」の展示ブース

ユニ・チャームヒューマンケア(東京都)の「ヒューマン」は尿を吸引する機



ノーリフトの実演(左)、ユニ・チャームヒューマンケアの尿吸引機(下)



ノーリフトの実演(左)、ユニ・チャームヒューマンケアの尿吸引機(下)